序

このたび，市立教育研究所恒例の教育論文および教育実践記録の募集を行ないましたが，今年度も例年に劣らず，多数の応募編数を得たことは，本地区の先生がたの教育研究が，ますます活発さを加えつつあることを示すもので，まことに頼もしいことであります。

ただし，このたびは，実践記録が昨年度の１３編から，今年度は１８編に伸びたのに対して，教育論文の分が一編の応募も得られなかったのは，いささかさびしさを感じさせるものがあります。

この教育論文のテーマは「学校教育の現代化」および「教育評価」の二つでありましたが，このテーマにやや抽象的な観があり，具体的に受けとめ難かったということが，応募のなかったひとつの原因かも知れませんが，ことによると，そういう理論的なものより，現場の実践に直接連なるものを，という考え方を示すものかも知れません。

ともあれ，この二つの問題は現下の教育界の課題とも言うべきものであり，わけても，「教育評価」の問題は，教育の本質に根ざす重要な問題として改めて見直されて来ている事情にあり，本地区においても，いっそうの関心を必要とするところであろうかと思われます。

それはさておき，今年度応募された実践記録の分は，内容が充実して来ており，研究の方法も向上しつつあるようすが，見とられます。これは言わば，そのまま足利の教育活動のレベルを示すものと言うことができるものであり，それが，年々向上しつつあることがはっきり認められるのは喜ばしいことであります。

ところで，今年度の実践記録１８編の内訳をみると，

国語科に関するもの　４，社会科に関するもの　２，理科に関するもの　１，家庭科に関するもの　１，保健体育に関するもの　２，英語科に関するもの　１，特別教育活動に関するもの　２，言語障害に関するもの　１，図書館教育に関するもの　１，現職教育に関するもの　１，その他２，ということになります。

昨年度の実践記録にもすぐれたものが多く含まれており，あるものは他地区の研究会などの研究資料として珍重されたということも聞いていますが，今年度の実践記録にも貴重なものが含まれております。おそらく，各学校の日々の指導活動にはもちろんのこと，最近，とみに盛んになって来つつある自主的サークルの教育研究活動にも多くの示唆を与えることでありましょう。

是非，これらの実践記録を日々の指導活動の参考としてじゅうぶん生かされるとともに，このうえさらに，これらの研究をいっそう発展させられるよう期待するものであります。

昭和４４年４月

足利市立教育研究所長　大　滝　徳　海